

報告事項ア

令和6年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査及び鳥取県体力・運動能力調査の結果について

令和6年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査及び鳥取県体力・運動能力調査の結果について、別紙のとおり報告します。

令和7年1月22日

鳥取県教育委員会教育長 足羽英樹

令和6年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査及び 鳥取県体力・運動能力調査の結果について

体育保健課

令和7年1月22日

令和6年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査及び鳥取県体力・運動能力調査の結果について報告します。

1 全国体力・運動能力、運動習慣等調査 (資料1～3参照)

(1) 調査概要

平成20年度から文部科学省（現在はスポーツ庁）が小学5年生、中学2年生を対象として実施している調査（悉皆調査）※令和2年度は新型コロナウイルス感染拡大のため調査は中止

(2) 各実技テスト種目の状況（全国順位の（ ）内の数字は令和5年度の全国順位）

項目	小5男子			小5女子		
	全国	鳥取県	全国順位	全国	鳥取県	全国順位
握力	16.02	15.99	25位(22) ↓	15.78	15.81	24位(33) ↑
上体起こし	19.19	19.03	28位(21) ↓	18.16	18.10	25位(20) ↓
長座体前屈	33.79	32.31	44位(35) ↓	38.21	36.75	41位(39) ↓
反復横跳び	40.67	41.56	15位(13) ↓	38.71	39.57	18位(15) ↓
20mシャトルラン	46.90	52.52	3位(3) →	36.60	41.91	5位(3) ↓
50m走	9.50	9.47	13位(16) ↑	9.76	9.74	20位(32) ↑
立ち幅跳び	150.46	149.07	38位(20) ↓	143.18	140.98	41位(26) ↓
ソフトボール投げ	20.74	21.22	22位(17) ↓	13.15	13.38	31位(26) ↓
体力合計点	52.54	52.85	13位(10) ↓	53.93	54.44	19位(16) ↓

項目	中2男子			中2女子		
	全国	鳥取県	全国順位	全国	鳥取県	全国順位
握力	28.91	29.28	23位(17) ↓	23.14	22.97	39位(22) ↓
上体起こし	25.82	25.84	24位(27) ↑	21.47	21.20	28位(11) ↓
長座体前屈	44.32	43.16	41位(32) ↓	46.44	44.98	43位(29) ↓
反復横跳び	51.49	52.44	10位(7) ↓	45.67	46.67	8位(1) ↓
20mシャトルラン	78.65	81.85	11位(4) ↓	50.48	53.53	8位(5) ↓
50m走	7.99	7.90	9位(3) ↓	8.96	8.97	29位(9) ↓
立ち幅跳び	197.16	198.65	21位(6) ↓	166.22	166.90	28位(17) ↓
ハンドボール投げ	20.49	20.32	34位(24) ↓	12.32	12.23	36位(30) ↓
体力合計点	41.69	42.50	19位(10) ↓	47.22	47.47	25位(10) ↓

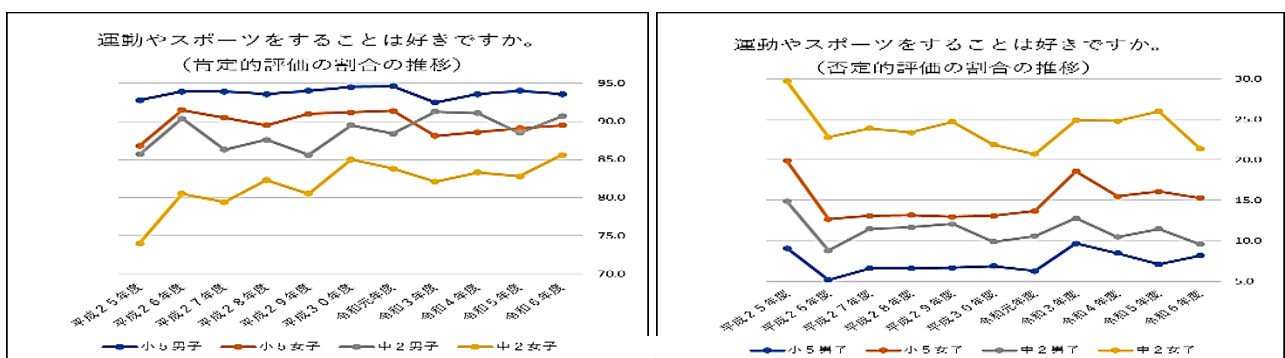
総合判定	小5男子		小5女子		中2男子		中2女子	
	全国	鳥取県	全国	鳥取県	全国	鳥取県	全国	鳥取県
A Bの割合	32.1%	33.4%	35.9%	37.8%	34.0%	37.4%	52.6%	54.1%
D Eの割合	35.9%	33.6%	30.7%	28.6%	31.5%	28.6%	19.5%	18.0%

評価基準表	A	B	C	D	E
小学5年生	65点以上	58～64点	50～57点	42～49点	41点以下
中学2年生	57点以上	47～56点	37～46点	27～36点	26点以下

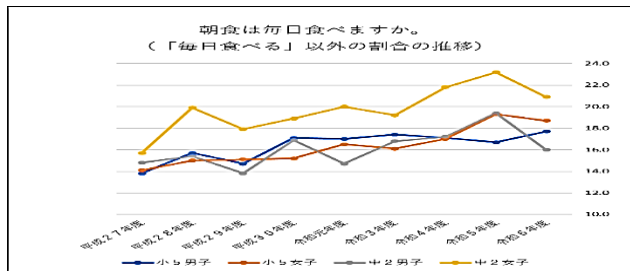
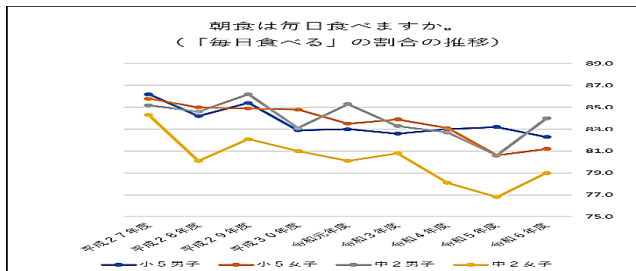
※各実技テストの結果を10点満点で換算し、合計80点満点で上記基準表に基づき、A～Eの評価を判定

(3) 運動習慣・生活習慣・運動意識の状況

- ・運動やスポーツをすることが「好き」「やや好き」と回答した児童生徒の割合は男子は90%を超え、女子は85%を超えている。
- ・小5及び中2の男女とも、「やや嫌い」「嫌い」と回答する割合は減っているが、女子の回答は男子より高い。
(※過去10年間の比較)

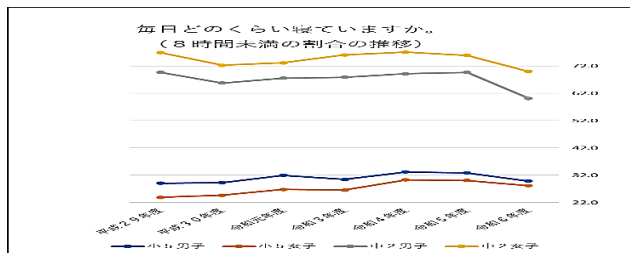
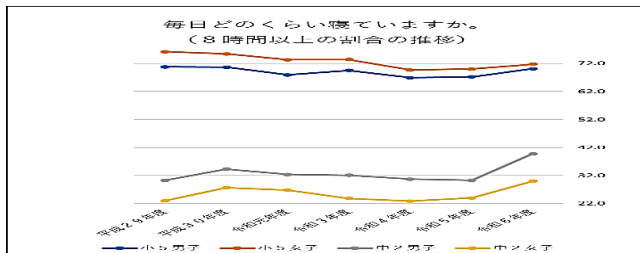


- ・朝食を「毎日食べる」と回答した児童生徒の割合は、小5男子以外は増加している。
- ・「食べない日もある」「食べない日が多い」「食べない」と回答した割合は小5男子以外は減少した。



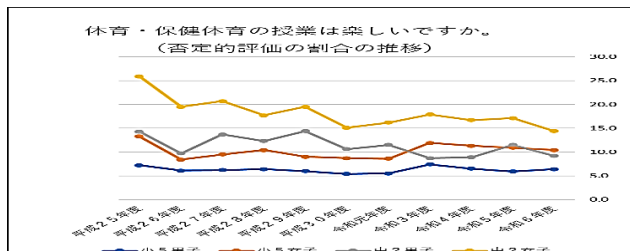
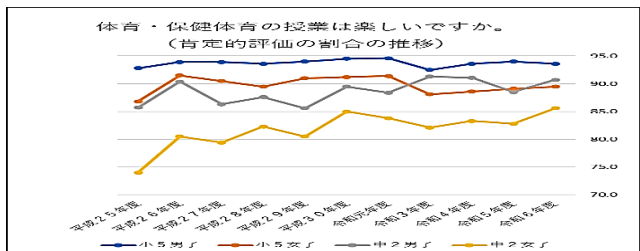
(※質問及び回答内容が平成27年度から変更)

- ・睡眠時間が「8時間以上」の割合は小5、中2の男女ともは昨年度より増加し、「8時間未満」の割合は減少した。

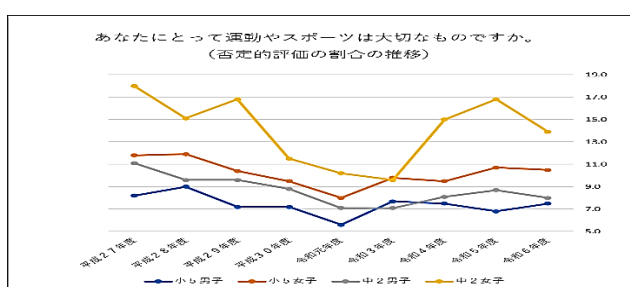
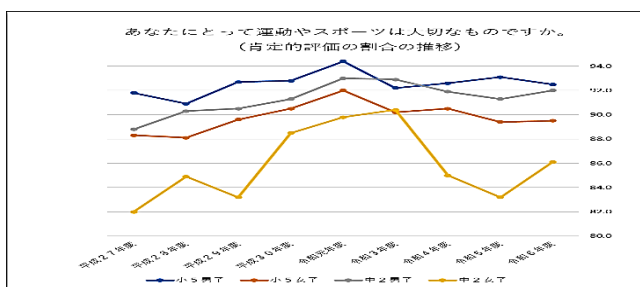


(※質問及び回答内容が平成29年度から変更)

- ・体育・保健体育の授業は「楽しい」「やや楽しい」と回答した中2女子の割合は増加傾向であり、「やや嫌い」「嫌い」の割合は減少傾向である。



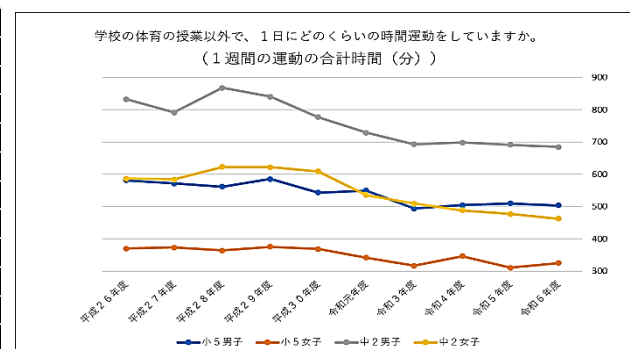
- ・運動やスポーツは「大切」「やや大切」と回答した児童生徒の割合は高い水準を維持しており、中2女子は昨年度より大幅に増加した。また、「あまり大切でない」「大切でない」の割合は減少した。



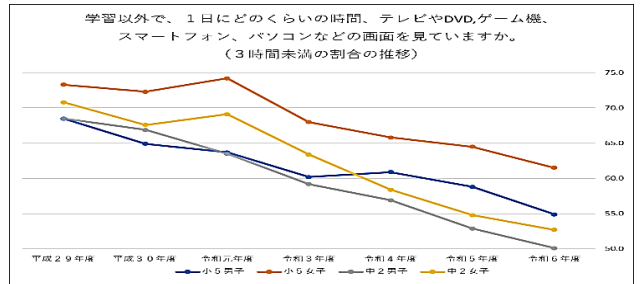
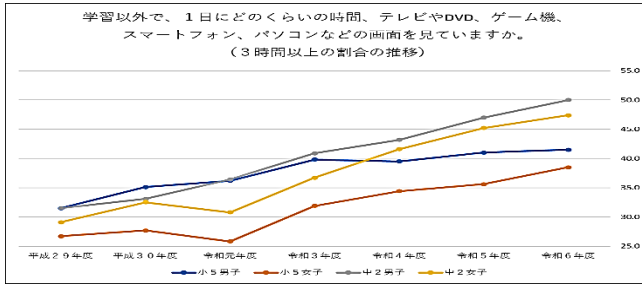
(※質問及び回答内容が平成27年度から変更)

- ・体育、保健体育以外の運動時間は小5、中2の男女とも減少傾向にあるが、中2女子以外は令和3年度から横ばいである。また、中2の男女とも過去10年で最も少ない数値であった。

1週間の運動時間	小5男子	小5女子	中2男子	中2女子
令和6年度	504	325	685	463
令和5年度	510	311	692	477
令和4年度	505	347	699	489
令和3年度	494	317	693	509
令和元年度	550	342	729	536
平成30年度	544	369	777	609
平成29年度	586	376	841	622
平成28年度	562	364	868	623
平成27年度	572	373	792	584
平成26年度	582	370	833	587
アベレージ	540.9	349.4	760.9	549.9

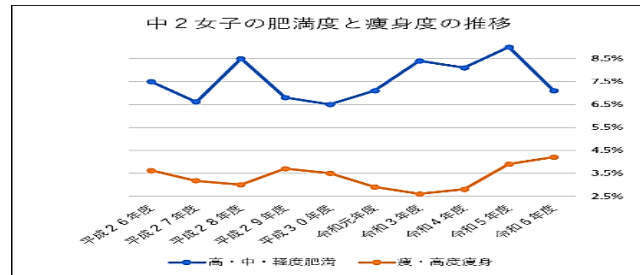
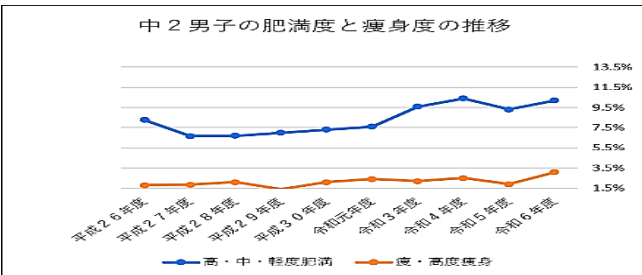
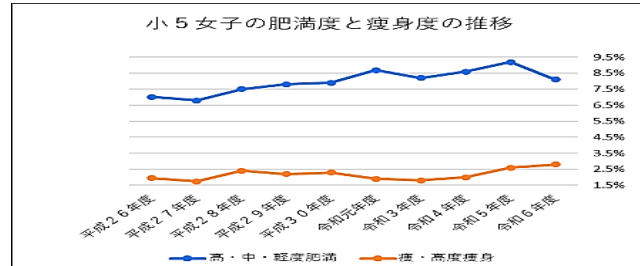
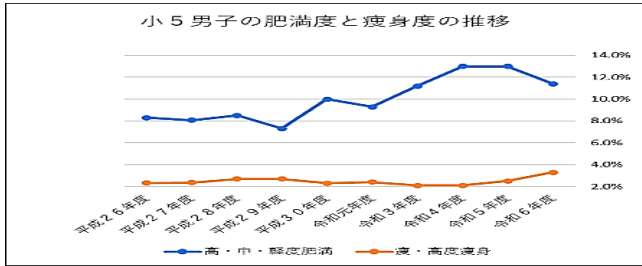


- ・スクリーンタイムが3時間以上の割合は小5、中2の男女とも年々増加していることに伴って、3時間未満の児童生徒の割合が年々減少している。



(※質問及び回答内容が平成29年度から変更)

- ・肥満の割合は、中2男子以外は昨年度より減少した。また、どの学年も痩身の割合は横ばいであるが、令和3年度から微増傾向にあり、中2女子の割合が大きく増加している。



(※質問及び回答内容が平成26年度から変更)

(4) 結果の考察

- ①全国も本県も体力合計点及び各項目点が低下傾向にあるが、本県の順位低下が著しい。
- ②経年比較において中学2年生女子の体力の低下が大きいのは、小学5年生時の令和3年度も、体力合計点が過去2番目に低い数値であったことから、運動が苦手な年代であることが考えられる。
- ③遊び場の減少、猛暑日の増加、放課後を活用した運動の確保の減少、部活動改革等、児童生徒を取り巻く環境の変化により、運動する機会が減少し、体力が低下していると考えられる。
- ④小学5年生男子を除き、昨年度より朝食を毎日食べる割合は増加し、毎日食べる以外の割合は減少しているが、平成27年度から比べると、全体的に朝食を毎日食べる割合は減少傾向で、毎日食べる以外の割合は増加傾向である。また、スクリーンタイムが3時間以上の割合は年々増加し、3時間未満の割合は年々減少しているところから、スクリーンタイムの長時間視聴が睡眠不足を招き、朝食を食べないことにつながっていることが考えられる。
- ⑤昨年度に比べ肥満度が減少傾向にある一方、痩身の割合は増加傾向で、特に中2女子は令和3年度から大きく増加しており、今後の推移を注視しておく必要がある。

2 鳥取県体力・運動能力調査 (資料4～7参照)

(1) 調査概要

- ・昭和52年から小1～高3の県内全児童生徒を対象として県教育委員会が実施している調査
(令和2年度は新型コロナウイルス感染拡大のため調査は中止)
- ・今年度の全国平均値との比較はできないため、前年度の体力・運動能力調査による同学年の全国平均値と比較
- ・全国平均値は令和5年度体力・運動能力調査のその年代の平均値

(2) 結果の考察

- ①「上体起こし」「ボール投げ」及び「合計得点」は小学校、中学校のすべての男女で全国平均値を下回っている。【資料4】
- ②「合計得点」については、男子は小1から高1まで、女子は中学生以外の学年が「C」となっており、全体的に体力が低下していることが考えられる。【資料4】
- ③高校で、全国平均値を上回る種目が多いのは、運動部活動等で体力が向上している生徒が多いことが考えられる。【資料4】
- ④過去6年間で今年度が最低記録となる種目が多く、特に小学校女子は各種目点及び合計得点とも多くの学年で過去最低となっている。「シャトルラン」で見取ることができる全身持久力の低下だけでなく、「反復横跳び」「立ち幅跳び」が全学年最低記録であることから、素早い動作やそれを継続する力も低下していると考えられる。【資料5、6】
- ⑤朝食を毎日食べない、スマートフォン等の使用時間及び睡眠時間が6時間未満の割合も年々増加し、基本的な生活習慣が定着していない児童生徒が増加していると考えられる。【資料7】
- ⑥生活習慣と体力には関係があることが資料7から読み取れるので、基本的な生活習慣が十分に定着していない児童生徒の増加が体力の低下につながっていることも要因として考えられる。

3 今後の取組

- ①運動やスポーツが「好き」「やや好き」と回答する割合は増加しているが、女子は「やや嫌い」「嫌い」の割合が高く、男女で差があることから、各校種において体育・保健体育の授業改善を行ない、運動やスポーツに興味を持ち、自ら運動やスポーツに取り組む態度を育成していくために、指導力の向上を図る。
- ②朝食を毎日食べる児童生徒は体力合計点が高いことから、朝食を摂取することが体力の向上には重要であることを、パンフレット等を作成して啓発していく。
- ③トップアスリート事業に登録されているアスリートが、体力テストの種目の行い方や動きのポイント、コツなどを伝える動画を作成し、理想の姿として児童・生徒の参考としてホームページ等で示す。
- ④トップアスリートとの交流は、児童生徒にとって運動に関心を持つ良い機会であるため、トップアスリート派遣事業や国事業のアスリート派遣事業等の活用を促していく。
- ⑤遊びを通して運動習慣が身に付くよう、幼稚園や保育所等に遊びの王様ランキングの活用を積極的に促していくとともに、日本スポーツ協会のアクティブチャイルドプログラム及びスポーツ庁が進める運動遊びや動画等を一覧にし、通知及び県教育委員会のポータルサイト等に掲載し、様々な運動遊びを紹介していく。
- ⑥子どもたちの体力の向上に向けた取組を、学校での取組だけでなく地域や家庭との連携を図った取組となるために、効果的な啓発方法等を検討していく。